

平成30年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で想像力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力のある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子

《児童目標》 やさしい子 元気な子 よく学ぶ子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

明るく、楽しく、活気にあふれ、児童にとって「行きたくなる学校」、保護者や地域住民にとって「行かせたい学校」、教職員にとって「勤めたい学校」にしたいと考える。

そのため、教職員が使命感に燃えて教育活動の充実に努めるとともに、保護者や地域との協働による「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 「21世紀をたくましく生き抜く力」の育成を目指し、「学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえるとともに、地域の教育力を有効に活用した特色ある教育活動を推進する。
- （2） 「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心など育む豊かな体験活動と、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
- （3） 「健やかでたくましい子」を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- （4） 「自ら学び自分をのばす子」を育成するため、学ぶ意欲を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を推進する。
- （5） 全ての教職員が、倫理観と使命感をもつとともに真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にする教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。
- （6） 教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育が行えるよう、教職員の働き方改革の視点に立ち、職場環境改善のための取り組みを推進する。
- （7） ○星が丘地域学校園小中一貫教育と、魅力ある学校づくり地域協議会（夢工房）による保護者、地域との連携強化を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ、学び続ける力の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

合言葉を《からだ元気 ころ元気 元気に学ぶ 昭和の子》として、『昭和の子 元気プラン2018』を推進する。また地域の教育力を有効に活用して学校地域協議会と一体となり、地域とともにある学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

○主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成

～人や地域とつながり、未来を切り拓く 生活科・総合的な学習の時間を通して～

【児 童 生 徒 指 導】

自分を大切に、他者もかけがえのない存在として大切にする態度・実践力の育成

- ・心のこもったあいさつや言葉づかいの育成
- ・自分・友人・家族・地域を大切に思える心の育成
- ・進んで自分の責任を果たそうとする力や態度の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

自他の命や健康の大切さを知り、健康・体力・安全の向上に心がける態度・実践力の育成

- ・健康・安全に心がけて生活できるようになるための食育・保健指導・安全教育の推進
- ・体育の授業等での学年に応じた体力づくりの実践
- ・八幡山などの教育資源を活用した行事等の工夫

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動や縦割り班活動を積極的に展開する。 ②授業の様々な活動を通して、教職員が児童のよさを認めるとともに児童相互に認め合う場を設ける。	B	【達成状況】 A1：児童の肯定的回答が96.3%と高く、目標は達成できた。 児童が意欲的に取り組む学校行事等を計画的に実施するとともに、教職員が共通認識をもって認め励ます指導を実践した。 【次年度の方針】 ①継続して指導する。 ②継続して指導する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①教師個々の能力が発揮できるよう特性を生かした組織の編成に努め、職員が協力して児童の指導に当たる。 ②児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、努力したところは認め、指導すべきところはきちんと指導する。	B	【達成状況】 A2：児童の肯定的回答が99.7%と高い数値を示している。 教師個々の特性を生かし、職員が協力して児童の指導に当たるとともに、教職員が共通認識をもって認め励ます指導を実践した。 【次年度の方針】 ①継続して指導する。 ②継続して指導する。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①授業での話し方・聞き方の指導の徹底に努めるとともに、「昭和小児童10の約束」や年間重点目標の指導の徹底を目指す。 ②休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。特に登下校時は、保護者や地域の方と連携し、安全指導を充実させる。 ③児童会活動において、マナーについて呼びかける活動を行う。	A	【達成状況】 A3：職員は100%、児童は88.9%と、達成数値を上回った。課題としては、廊下の歩行が徹底されていない状況があるので、指導を強化したい。 【次年度の方針】 ①～③を継続しつつ、廊下の歩行については、日常的に呼びかけをして、意識を啓発していくとともに、児童会の取組等を活用する。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努めるとともに、振り返りの時間を十分確保して、学習の内容を定着できるようにする。 ②児童が意欲的に取り組めるように習熟度別学習・少人数指導・チームティーチング等の授業形態や分け方を工夫し、学力向上を図る。	B	【達成状況】 A4 児童の肯定的回答 97.5%と目標値を達成している。 ① 振り返りの時間を確保したことにより、児童が学習内容を理解できたか確認したり、学習の意欲へとつなげたりすることができた。 ② 特に習熟度別学習では、意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 ①② 継続して指導する。

A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 80%以上	①「いじめゼロ集会」や「いじめゼロ強調月間」などの機会に、いじめられる人の気持ち、いじめた人の気持ち、周りの人の気持ちなどを考えさせ、いじめ根絶への意識を高める。 ②年3回「いじめアンケート」を実施して実態を把握し、問題の早期発見と解決に努める。必要に応じて、職員間で情報の共有を図る機会をもつ。 ③いじめに対する対策を学校だより・学年だよりや学校ホームページなどを通して積極的に公表する。	【達成状況】 A5：すべての肯定的回答が達成されており、特に保護者の割合の増加が見られた。③の取組の効果が出ている。 【次年度の方針】 ①～③の取組を継続するとともに、「いじめアンケート」の結果を蓄積し、問題の早期発見・解決を強化する。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「私の学校生活や、様々な活動は充実している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①前年度の学校評価を踏まえて教育課程を編成するとともに、学校行事・授業参観の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートにより、工夫改善を図る。 ②学校地域協議会への説明や授業公開等を行い、意見を反映させながらより開かれた教育課程の実施に努める。	【達成状況】 A6：児童の肯定的回答が 94.1%と高い数値を示している。 学校行事・授業参観等の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートの結果を踏まえ、工夫改善を図った。 【次年度の方針】 ①継続しつつ、学校評価等の結果を踏まえて、さらに工夫改善を図る。 ②今年度と同様に、より開かれた教育課程の実施に努める。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①授業参観および懇談会（年2回）・学校自由参観・音楽集会・親子ふれあい活動（各学年）を実施するとともに、積極的な参加や参観を呼びかける。 ②学校だよりを月1回程度発行し、保護者・地域住民に配付・回覧する。また、ホームページによる情報の公開に努めるなど、必要な情報や学校の取り組みなどを適宜積極的に発信する。	【達成状況】 A7：保護者の肯定的回答が 96.8%、地域住民の肯定的回答が 100%と、いずれも高い数値を示している。 音楽集会や親子ふれあい活動などの参加率も高く、保護者の関心の高さがうかがわれる 【次年度の方針】 ①継続しつつ、学校公開や親子ふれあい活動の方法について検討し、さらに工夫改善を図る。 ②ホームページの更新を本年度同様に実施しながら、保護者に閲覧を進める。
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①昭和小夢工房（地域協議会）を中心とし、各種団体との連携を図り、諸活動を充実させ実施していく。 （ゲストティーチャー・安全ボランティア・盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等） ②企業や公的機関の実施する授業協力を活用するとともに、地元の企業商店等の協力等によるインターンシップ活動等を実施する。	【達成状況】 A8：保護者の肯定的回答が 96.4%、地域住民は 100%と高い数値を示している。 盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等各種団体主催の行事の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ①地域コーディネーターとの連絡調整をさらに密にし、ゲストティーチャーの活用を図る。地域行事の方法について検討し、工夫改善を図る。 ②今後も、企業や公的機関の実施する出前授業などを積極的に活用するなど、継続して実施する。

A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①日常の清掃活動のほか、クリーン活動週間を位置付け、充実した清掃活動に繋げる。また、定期的な環境点検を実施し、迅速に補修を行い、回復補修に努める。 ②校内掲示計画・花壇栽培園計画の見直しや、児童による各種委員会活動を通して、潤いのある学習環境づくりに努める。	【達成状況】 A9：保護者の肯定的回答が 93.2%，地域住民が 94.4%と高い数値を示している。 全職員による定期的な環境点検を実施し、学習がしやすい環境づくりに努めた。 B 【次年度の方針】 ①継続して実施する。 ②継続して実施する。
A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①小中一貫教育として、乗り入れ授業を年間8回実施し、小・中学校相互の理解を深め、9年間を見通した教育効果を高めるよう努める。	【達成状況】 A10：保護者、地域住民の肯定的回答は9割を上回っている。各種行事での中学生との交流が効果的だった。 A 【次年度の方針】 ①現在の取組を継続しつつ、さらに連携を密にする。
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①「昭和の子元気プラン 2018」を進めるにあたり、関係教員と専門性を有するスタッフが役割分担を明確にした上で連携し、業務を遂行できるようにする。	【達成状況】 A11：教職員の肯定的回答が 82.6%で、目標は達成できた。 図書館司書やALT、スクールカウンセラーかがやきルーム指導員の専門性が発揮されていた。 B 【次年度の方針】 ①教員の業務縮減については、働き方改革と合わせて検討していく。
A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①関係教員と専門性を有するスタッフが定期的または必要に応じ、担当業務の効果的・効率的な実施のため話し合う場を設け、改善を図るようにする。	【達成状況】 A12：教職員の肯定的回答が 95.5%と高い数値を示している。 B 【次年度の方針】 ①継続して実施する。

教育活動の状況	生 活	B 1 児童理解に努め、様々な問題を抱える配慮児童への適切な指導がなされている。 【数値指標】 学校アンケート「先生は、困ったときに相談にのってくれ、解決の手助けをしてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①教育相談週間（年 2 回）や日常の相談活動、Q-U 検査等を通して児童理解に努める。 ②特別支援教育コーディネーターや担任との連携のもとかがやきルームの効果的活用を図る。 ③教職員全員で配慮児童の情報を共有し、連携を図る。	A 【達成状況】 B1：昨年よりもわずかに下回ったものの、大部分の児童は、肯定的に考えており、96.9%だった。 【次年度の方針】 ①～③の取組を継続するとともに、児童が話やすい雰囲気づくりを教職員が心がける。
		A 13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①教師が進んで日常的なあいさつを実践し指導するとともに、年間を通して児童会による縦割り班でのあいさつ運動を実施する。 ②望ましいあいさつの仕方について指導する機会をもつ。 ③児童会を中心としたあいさつ運動を継続、拡張し、中学校とも連携しあいさつ運動を励行していく。	B 【達成状況】 A13：保護者 79.3%とわずかに下回った。地域住民と、児童は 95%前後だった。 【次年度の方針】 ①～③あいさつ運動について、時間帯や、指導法について、工夫し、さらに効果的な取り組みになるようにする。また、保護者にも懇談会等の機会に協力を呼びかける。
		A 14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①相手を「～さん」と呼んだり「～です。～ます。」などの丁寧な言葉遣いをしたりすることを奨励し、言語環境を整えるとともに、保護者にも呼びかけ、日常化を図る。 ②休み時間や学校外の言葉遣いについても指導するとともに、地域の行事等の機会を生かし、地域や家庭との連携を図る。	A 【達成状況】 A14：86.4%で、指標を達成したが、保護者との意識の差がある。 【次年度の方針】 ①、②人権週間等を活かして、意識づける。また、学校・家庭・その他関係各所との連携を図り、同一歩調で指導したい。
		B 2 人権の大切さを知り、誰とでも仲良く生活している。 【数値指標】 学校アンケート「友だちと仲良く遊び、わけへだてなく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級・学年でのグループ活動や縦割り班活動を通して、仲間意識を育て支え合う集団づくりを推進する。 ②地域学校園の重点課題である、思いやり・情報モラルを育む道德の授業を通し、人権を尊重する態度を身につけさせる。	A 【達成状況】 B2：昨年よりもわずかに下回ったものの、大部分の児童は、肯定的に考えており、93.2%だった。 【次年度の方針】 ①、②の取組を継続するとともに、学校体制で人権意識の啓発に力を入れたい。

健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童・生徒は、休み時間や放課などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①のびのびタイム（毎週1回）休み時間・昼休み等において校庭での遊びを奨励し、用務の無い限りは教師も率先して児童と遊ぶ。 ②学年の発達段階に応じて自主的に取り組める補強運動（サーキットトレーニング等）の例示を拡充し、教科体育の充実を図るとともに、体力づくりのための行事を行う。 （縄跳び検定・水泳検定・鉄棒検定・ミニマム・山野横断持久走大会他）	【達成状況】 A15：児童の肯定的回答は、90.7%で昨年度より上昇し、十分達成された。 のびのびタイムは計画的・効果的に実施できた。外遊びを奨励したことにより、休み時間（昼休み）は、ほとんどの児童が外に出て遊んでいる。また、各種検定カードやミニマムの検定の目標に向けて、意欲的に取り組むことができた。運動委員会主導でのミニスポーツ大会などで運動の機会が増えた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。学級懇談会等で放課後の外遊びについて啓発していく。 ② 継続して実施する。
	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童生徒は好き嫌いなく給食を食べている：児童」「自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている：保護者」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上	①給食の時間に、学校栄養士が各学級に計画的に入り、発達段階に応じた栄養指導を行うとともに、食育への啓発を図るために食育だよりを発行する。 ②学級活動や家庭科、生活科、保健の授業において、学級担任は学校栄養士や養護教諭とともに食に関する指導を積極的に実施する。	【達成状況】 A16：児童の肯定回答は 93.2%で、保護者は882.2%とどちらも達成された。 【次年度の方針】 ① 給食では、好き嫌いなく食べられるようになってきている。保護者にも、学校の食育指導が理解され、家庭においても食の大切さが浸透してきている。今後も、学級懇談会や食育だより等で食の現状や取組について周知していく。 ② 継続して実施する。
学習等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上	①児童が意欲的に取り組めるような場を設定し、発問等を工夫する。 ②グループ学習についてのマニュアルを作成し、目的を明確にしたグループ作りなど、児童が互いに考えを出し合い高め合えるよう工夫する。	【達成状況】 A17 児童の肯定的回答 95.4%と目標値を達成している。児童の肯定的回答は昨年より上がっている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 各学年において活用している話し合いの仕方をまとめ、系統立ててマニュアル化を進める。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①全校共通の授業のきまりを作ったり、学級の実態に応じた月の学習目標を決めたりすることで、学び方を身につけさせるとともにわかる授業の展開に努める。 ②学年の発達段階に応じて、聞き方のポイントを示した掲示物や声の物差しを作成し、児童の意識化を図る。	【達成状況】 A18 児童の肯定的回答 93.8%と目標値を達成している。児童も保護者も昨年度より肯定的回答が上がっている。 【次年度の方針】 ①全校共通の授業のきまりを見直し、児童への意識付けを図る。 ②継続して指導する。

本校の特色・課題等	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①ボランティア活動や地域での行事に関する情報を適宜発信していく。	A	【達成状況】 A19：児童の肯定的回答が 93.5%地域住民が 100%と目標を達成しているが、保護者は 79.4%となった。 【次年度の方針】 ①クリーン活動の時期や実施方法を見直し、ボランティア活動への意識を高める。
	B3 児童は、読書の楽しさを知り、本をたくさん読んでいる。 【数値指標】 学校アンケート「私は、本を読むことが好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①おはようタイムに週 2 回読書の時間を設け、月 3 回のボランティアによる読み聞かせを実施するほか、教師の読み聞かせの機会も積極的に実践していく。 ②図書館の積極的活用とともに、図書館便りや学校園ほんよみネット等を通して、家庭にも協力を呼びかけたり読書カードを活用したりして、読書時間の確保を図る。	B	【達成状況】 B3：児童の肯定回答は 88.9%で達成されている。保護者は、昨年度より肯定的回答が上昇した。 読み聞かせボランティア「おひさま」による読み聞かせの時間では、どの学級でも本の世界に没頭して聴き入っている姿が見られ、図書室でも意欲的に読書する姿が見られた。 【次年度の方針】 ①、②教師の読み聞かせを実践していく。継続して実施し、家庭での読書時間の確保を図る。
	B4 児童は、八幡山公園における活動・行事に、楽しく参加している 【数値指標】 学校アンケート「私は八幡山公園での授業や行事は楽しく、一生懸命取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①教科指導や学校行事において、自然観察や体験、史跡見学、施設利用、ウォークラリー、山野横断持久走大会等、八幡山公園での活動を工夫して実践する。	B	【達成状況】 B4：児童、保護者ともに肯定回答は、96%以上と十分達成されている。 八幡山を活用した活動を計画的に実施し、各学年でも教育内容に応じて効果的に活用できた。 【次年度の方針】 ①継続して実施する。
	B5 主体的に考え、互いに学び合う力が育っている。 【数値指標】 学校アンケート「私は自分の考えを伝え、友だちの考えを聞きながら、学習することが楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①他とかわり合いながら主体的に学べる場を設定することにより、話す力・聞く力・コミュニケーション力や社会性を育てる。	B	B5 児童の肯定的回答 91.0%と目標値を達成している。保護者の肯定的回答が 92.5%と高くなり、質問の意図が伝わりやすくなったことで効果があったと考えられる。 各学年で、体験活動や外部や地域のボランティアを活用する学習が定着してきており、コミュニケーション力や社会性が育ってきている。 【次年度の方針】 ①継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け、「からだ元気、こころ元気、元気に学ぶ昭和の子」を合言葉として、昭和小元気づきプラン2018を推進し、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、保護者や地域と協働のもと、八幡山を活用した学校行事や、児童を主体とした縦割り班活動などを展開するとともに、認め励ます教育を推進し、子どもが楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指してきた。

そうした中で、学校マネジメント全体アンケートの結果では、児童・保護者・地域住民の肯定的回答の割合は全般に高く、児童の評価では「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」99.7%、「いじめが許されない行為であることを指導している」98.8%、が特に高い値であった。組織的に、協働して教育活動に取り組んできた成果が表れたと受け止めている。

○加えて、「小中一貫教育・地域学校園」も、新たな学校園ビジョンのもと星が丘地域学校園で連携した取組を積極的に進め、学校マネジメント全体アンケートの結果では、保護者93.1%、地域94.1%、児童96.6%と、肯定的回答の割合がいずれも高い状況であった。

6 学校関係者評価

平成31年2月18日（月）に、昭和小学校地域協議会を開催し、その中で、うつのみや学校マネジメントシステム全体アンケートの結果を説明するとともに、本学校評価書における教職員による自己評価結果を説明し、学校関係者評価としての意見を求めた。

その中では、次のような意見が出された。

- ・「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」については、保護者、地域住民、児童ともに下がっているが、いつも整備されていると感じている。
- ・自分たちの子どものころよりマナーも言葉づかいもよくなっていると思う。子どもらしさを残しつつマナーを教えていけるとよいのではないか。
- ・子どもたちは、先生からの励ましなどから自分たちを理解してもらえていると感じている。家庭でも頑張るので、学校でも引き続き励ましをお願いしたい。
- ・学校の先生はきめ細かく見てくれていると思う。
- ・運動について、アンケートの結果では高くないが、実際には、子どもたちは山野横断持久走大会の練習などにはよく取り組んで外に出て運動している。イベントやがんばりカードなどが励みになっていると思う。
- ・2020年のオリンピックは、外国の方に対するマナーなどを教えていくいいきっかけになるのではないか。
- ・下校後、近くの公園で元気に外遊びをしている姿をよく見かける。いい傾向ではないかと思っている。
- ・高学年の児童に多いが、登下校時に声が大きく休んでいる人の迷惑になっていることがある。言葉づかいと一緒に指導してもらえればと思う。
- ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」については、かなり高い評価を得ており、自分としては満点をあげてもいいと思っている。
- ・近所で子どもたちが困っている様子なので声をかけたときに、すぐに学校に連絡をして先生に相談をしたいという反応があった。先生と子供の間の信頼関係がよくできていると感じた。
- ・防犯パトロールとして下校時にいっしょに帰るときの会話などは、人に対する配慮が感じられる。
- ・ボランティア活動は子どものころからやっていると大人になってからも参加しやすいので、参加できる機会がたくさんあるとよい。
- ・不登校について、発達障害が疑われる場合があると聞いた。児童もそうだが保護者へのケアも大切だと思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、昨年度の評価や市内の小学校の平均と比較しても良い評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者や児童、地域協議会委員の皆様方から寄せられたご意見などを真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していく。

・いじめ対策については、今年度の取り組みを継続するとともに、アンケートの結果を蓄積し、常に問題の早期発見・解決に努める。

・時と場に応じたあいさつや言葉づかいについて、学校・家庭・地域が連携を図り、同一歩調で指導していく。あいさつ運動などはさらに効果的な取り組みになるよう工夫していく。

○努力したところは認め、指導すべきところはきちんと指導するなど、学校と家庭が連携した認め励ます指導の充実を引き続き図り、児童の自己肯定感を高める指導を継続していく。

・廊下の歩行については、日常的な呼びかけをして意識を啓発していくとともに、児童会等で取り組みを工夫し、マナーアップを図る。

・本校の特色であるキャリア教育を一層推進するとともに、八幡山などの自然環境、県庁を始め近隣の公共機関等、地域の資源を最大限活用して教育の幅の拡張に努める。